

10 総合的な学習（探究）の時間

■小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程）、特別支援学校（小学部・中学部）

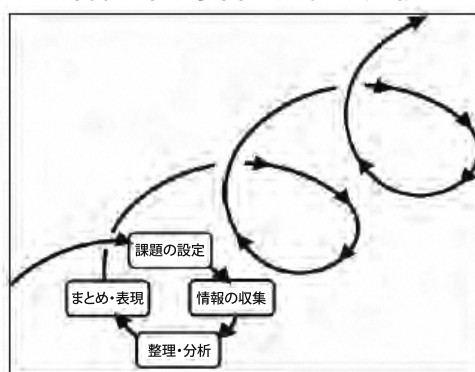
総合的な学習の時間は、「各学校が地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習、探究的な学習、児童生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした特色ある教育活動を行う時間」として設けられているものです。

1 総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

探究的な学習の過程の連続



2 総合的な学習の時間の指導計画

総合的な学習の時間の目標を実現するためには、各教科、道徳科、外国語活動（小学校）及び特別活動を含めた全教育活動における総合的な学習の時間の位置付けを明確にすることが重要であり、それぞれが適切に実施され、相互に関連し合うことで教育課程は機能を果たすことになります。

すなわち、学校の教育目標を教育課程に反映し具現化していくに当たっては、これまで以上に総合的な学習の時間を教育課程の中核に位置付けるとともに、各教科等との関わりを意識しながら、学校の教育課程全体で資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを行うことが求められます。

したがって、総合的な学習の時間が実効性のあるものとして実施されるためには、地域や学校、児童生徒の実態や特性を踏まえ、各教科等を視野に入れた全体計画及び年間指導計画を作成することが求められます。

各学校においては、校長のビジョンとリーダーシップの下で総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画を作成することが重要であり、これらの計画を作成することによって、適切な教育活動が展開され、学校として行き届いた指導が行うことが可能となります。

○ 総合的な学習の時間の内容

総合的な学習の内容は、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力」を各学校が定めます。つまり、「何を学ぶか」とそれを通して「どのようなことができるようになるか」ということを各学校が具体的に設定するということであり、他教科等にはない大きな特徴の一つです。探究課題としては、次のような例が考えられます。

- (1) 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
 - ・国際理解：地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観
 - ・情報：情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化
 - ・環境：身近な自然環境とそこに起きている環境問題
 - ・福祉：身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々
 - ・健康：毎日の健康な生活とストレスのある社会 など
- (2) 地域や学校の特色に応じた課題
 - ・町づくり：町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織
 - ・伝統文化：地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々
 - ・地域経済：商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会
 - ・防災：防災のための安全な町づくりとその取組 など
- (3) 児童生徒の興味・関心に基づく課題
 - ・キャリア：実社会で働く人々の姿と自己の将来
 - ・ものづくり：ものづくりの面白さや工夫と生活の発展
 - ・生命：生命現象の神秘さや不思議さと、そのすばらしさ など

○ 総合的な学習の時間における学習指導の基本的な考え方

- (1) 児童生徒の主体性の重視
学び手としての児童生徒の有能さを引き出し、児童生徒の発想を大切に、育てる主体的、創造的な学習活動を展開すること
- (2) 適切な指導の在り方
探究課題に対する考えを深め、資質・能力の育成につながる探究的な学習となるように、教師が適切な指導すること
- (3) 具体的で発展的な教材
身近にある具体的な教材、発展的な展開が期待される教材を用意すること

○ 学習活動の展開に当たっての配慮事項

- (1) 各学校において定める目標及び内容に基づき、児童生徒の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。
- (2) 探究的な学習の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際、例えば、比較する、分類する、関連付けるなどの考えるための技法が活用されるようにすること。
- (3) 探究的な学習の過程においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるようにすること。その際、(コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、) 情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。(かっこ内は小学校のみ)
- (4) 自然体験や(職場体験活動、) ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。(かっこ内は中学校のみ)
- (5) 体験活動については、総合的な学習の時間の目標及び各学校において定める目標及び内容を踏まえ、探究的な学習の過程に適切に位置付けること。
- (6) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ、全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。
- (7) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。
- (8) (小学校) 国際理解に関する学習を行う際には、探究的な学習に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること。
(中学校) 職業や自己の将来に関する学習を行う際は、探究的な学習に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。
- (9) (小学校のみ) 情報に関する学習を行う際には、探究的な学習に取り組むことを通して、情報を収集・整理・発信したり、情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるようにすること。新学習指導要領総則に掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、プログラミングを体験することが、探究的な学習の過程に位置付くようにすること。

3 総合的な学習の時間の評価

評価に当たっては、この時間の趣旨、ねらい等の特徴が生かされるよう、児童生徒のよい点や学習に対する意欲・態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価することが大切です。

また、児童生徒が、具体的な学習活動を通して探究したこと、感じたこと、学んだことを振り返り、その課題について、今後どのようにかかわっていくべきかを考えることが大切であり、活動全体を振り返り、生き方を探るための評価を工夫する必要があります。

評価の方法の例

- 発表やプレゼンテーションなどの表現による評価
- 話合い、学習や活動の状況などの観察による評価
- レポート、ワークシート、ノート、絵などの制作物による評価
- 学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価
- 評価カードや学習記録などによる児童生徒の自己評価や相互評価
- 教師や地域の人々等による他者評価 など

○ 指導と評価の実際（中学校の例）

◆ポートフォリオ活用の利点

- ①問題解決や探究の過程を詳しく把握することができる。
- ②生徒が学習に見通しをもったり、資料などを蓄積したり、振り返ったりすることができる。
- ③シートを工夫することにより、活動ごとに自分の考えや意識の変化を記録し、振り返りの機会に活用することができる。
- ④取材メモや収集した資料などを蓄積することにより、情報を整理・分析しながら学習することができる。

生徒の学習状況

他のグループの発表を聞き、気付いたことや感想を記録シートに記入していた。

教師の見取り

- ・他のグループの提案を真剣に聞き、ポートフォリオのシートに熱心に記入している。
- ・調査した結果や自分たちの主張を見やすくわかりやすいポスターにまとめていた。
- ・これまでの記録を振り返って、自分の考えを広げたり深めたりすることはできていない。

教師の手立て

- ・わかりやすくまとめていることを十分認めたのち、他の人の意見や感想を聞いて、相違点や共通点を整理して考えること、根拠となる資料を見付けて記述に含めることを伝えた。
- ・ポートフォリオの記録を見直し、今までの自分の考えと比べ、違うものや改めて疑問に思ったことなどをまとめることを伝えた。

①〇月〇日（〇曜日）

⑨△月△日（△曜日）記録シート 名前 生徒A

【今日の課題】

「北方領土の平和的な解決方法から、未来の北海道づくりについて考えよう」

【発表を聞き、参考になることをメモしましょう】

地域の人も、関心のない人が多い。大人でも、無関心なんだな。

【私の感想】

無関心がいけないと思った。いろいろな考えがありすぎて、自分の考えをどうまとめていいかわからなくなった。

【自己評価】

- ・発表や話し合いを通して、北方領土問題の平和的な解決方法について考えることができた。(A-B-C)
- ・未来の北海道づくりについて、必要なことを考えることができた。(A-B-C)

生徒の反省

- ・北方領土問題に今まで無関心だった自分と向き合うことができた。
- ・ポートフォリオを開き、これまでの記録や集めた資料を見直して、大事だと思う資料を見付けることができていた。また、見付けた資料が適切かどうかを担当に相談しながら、振り返りシートに記入していた。
- ・一道民として北海道のことを考えるという視点をもつことができるようになった。

【単元の学習を終えた後の姿】

2月7日の北方領土の日が近づき、北方領土のことを取り上げるニュースを見る機会が増え、教室内で北方領土について話す場面が見られたり、学級担任に、「私も署名していいのかな」と話しかけたりしていた。

⑨△月△日（△曜日）振り返りシート 名前 生徒A

【今日の課題】

「北方領土の平和的な解決方法から、未来の北海道づくりについて考えよう」

【発表や話し合いから気付いたこと、思ったことを書きましょう】

〇月〇日の時は、自分も北方領土問題に無関心だった。元島民の人の話や他のグループの提案を聞いて、無関心じゃいけないんじゃないかなって思った。特に、Cグループのポスターを見て、大人も無関心な人が多いんだとわかった。みんなにもっと知ってもらうために、何かすることが必要なんじゃないかな。

【もっと知りたいこと、これからやってみたいこと、やらなければならないことなどを書きましょう】

北方領土問題の解決なくして北海道の未来は明るくならないのでは？北海道の人も、ロシアの人も、仲良く暮らしていけるように、交流する機会をつくらしたりして、理解し合えるようにしていかないと。

1 総合的な探究の時間の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

2 総合的な探究の時間の指導計画

総合的な探究の時間の目標を実現するためには、各教科、特別活動を含めた全教育活動における総合的な探究の時間の位置付けを明確にすることが重要であり、それぞれが適切に実施され、相互に関連し合うことで教育課程は機能を果たすこととなります。すなわち、学校の教育目標を教育課程に反映し具現化していくに当たっては、これまで以上に総合的な探究の時間を教育課程の中核に位置付けるとともに、各教科・科目等との関わりを意識しながら、学校の教育活動全体で資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを行うことが求められます。したがって、総合的な探究の時間が実効性のあるものとして実施されるためには、地域や学校、生徒の実態や特性を踏まえ、各教科・科目等を視野に入れた全体計画及び年間指導計画を作成することが求められます。

各学校においては、校長のビジョンとリーダーシップの下で総合的な探究の時間の全体計画及び年間指導計画を作成することが重要であり、これらの計画を作成することによって、適切な教育活動が展開され、学校として行き届いた指導が行うことが可能となります。

○ 総合的な探究の時間の内容

総合的な探究の時間においては、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力」を各学校が定めます。つまり、「何を学ぶか」とそれを通して「どのようなことができるようになるか」ということを各学校が具体的に設定するということであり、他教科等にはない大きな特徴の一つです。探究課題としては、次のような例が考えられます。

- (1) 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
 - ・国際理解：外国人の生活者とその人たちの多様な価値観
 - ・情報：情報化の進展とそれに伴う経済生活や消費行動の変化
 - ・環境：自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題
 - ・福祉：高齢者の暮らしを支援する福祉の仕組みや取組
 - ・健康：心身の健康とストレス社会の問題 など
- (2) 地域や学校の特色に応じた課題
 - ・町づくり：地域活性化に向けた特色ある取組
 - ・伝統文化：地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織
 - ・地域経済：商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会
 - ・防災：安全な町づくりに向けた防災計画の策定 など
- (3) 生徒の興味・関心に基づく課題
 - ・文化の創造：文化や流行の創造や表現
 - ・教育・保育：変化する社会と教育や保育の質的転換
 - ・生命・医療：生命の尊厳と医療や介護の現実 など
- (4) 職業や自己の進路に関する課題
 - ・職業：職業の選択と社会貢献及び自己実現
 - ・勤労：働くことの意味や価値と社会的責任 など

○ 総合的な探究の時間における学習指導の基本的な考え方

- (1) 生徒の主体性の重視
学び手としての生徒の有能さを引き出し、生徒の発想を大切にし、育てる主体的、創造的な学習活動を展開すること
- (2) 適切な指導の在り方
探究課題に対する考えを深め、資質・能力の育成につながる探究活動となるように、教師が適切な指導をすること
- (3) 具体的で発展的な教材
具体的な教材、発展的な展開が期待される教材を用意すること

○ 学習活動の展開に当たっての配慮事項

- (1) 各学校において定める目標及び内容に基づき、生徒の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。
- (2) 課題の設定においては、生徒が自分で課題を発見する過程を重視すること。
- (3) 自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえた学習を行う際には、これらの視点を生徒が自覚し、内省的に捉えられるよう配慮すること。
- (4) 探究の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際、例えば、比較する、分類する、関連付けるなどの考えるための技法が活用されるようにすること。
- (5) 探究の過程においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。その際、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。
- (6) 自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。
- (7) 体験活動については、総合的な探究の時間の目標及び各学校において定める目標及び内容を踏まえ、探究の過程に適切に位置付けること。
- (8) グループ学習や個人研究などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ、全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。
- (9) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。
- (10) 職業や自己の進路に関する学習を行う際には、探究に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の在り方生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

3 総合的な探究の時間における評価

評価の方法の例

- プレゼンテーションやポスター発表、総合芸術などの表現による評価
- 討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価
- 学習や活動の状況などの観察記録による評価
- 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物、それらを計画的に集積したポートフォリオ（小学校中学校からの蓄積があると望ましい）による評価
- 課題設定や課題解決能力をみるような記述テストの結果による評価
- 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価
- 保護者や地域社会の人々等による第三者評価 など